令和５年度事業報告

障害者支援施設　障害者福祉センター厚和寮

１　基本方針

障がいのある方に対し、快適な施設生活が送れるよう介護サービス提供の充実を図ると共に、地域や家庭での新たな生活に向けて安心して移行できるよう支援を行う。

また、在宅の障がい者に対しては安心安全な日中活動の場所を提供し、ケアマネジメントの手法を活用して社会リハビリテーションを中心とした各種サービスを提供し、地域生活に必要な社会生活力を高めると共に、地域資源との連携の中で自立と社会活動への参加を目指した支援を行う。

２　利用者の状況（令和６年３月３１日現在）

（１）入所者状況　（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和５年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所人員	退所人員	退所理由別								
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡			
区　分	定員				ＧＨ	ｱﾊﾟｰﾄ等							
生活介護	60	63	6	2	0	0	0	0	2	0	12,590	77.7%	67
施設入所支援	40	42	1	2	1	0	0	1	0	0	14,567	99.5%	41
4年度 生活介護	60	66	5	8	0	0	0	1	6	1	13,301	78.6%	63
4年度 施設入所支援	40	40	3	1	0	0	0	0	0	1	14,827	101.5%	42

（２）障害支援区分

①生活介護　（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	
男性	0	0	2	17	18	8	4	49
女性	0	0	0	7	8	3	0	18
計	0	0	2	24	26	11	4	67

②施設入所支援　（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	
男性	0	0	0	9	12	6	3	30
女性	0	0	0	4	5	2	0	11
計	0	0	0	13	17	8	3	41

３　事業の実施状況

（１）安定した経営をめざす

年度当初の入所利用者は４２名でスタートし２名の退所と１名の入所があり、現在は４１名の入所利用となっている。

１名は身体状況の悪化により毎日のインシュリン注射が必要となり、看護師１名体制の当寮では対応できないための移管であった。もう１名の退所は昨年度からスタートさせた寮独自の「地域生活応援プロジェクト」の取り組みにより、厚和寮から五年ぶりにグループホームに移行された方であった。

その後の入所は緊急短期利用で入所待ちをされていた方であり移行はスムーズに行われた。

今後は１名の余裕を持たせながら緊急時の入所対応を可能とすることが有用であると思われる。

年度当初入所待機者は２０名(男性：１３名、女性：７名)あったが、年度末入所待機者は２８名(男性：１８名、女性：１０名)と数自体は増加しているが複数箇所への申込であったり、将来的な入所申込であったりと直ぐに利用される方はいない状況にある。

通所利用者に関しては年度当初２１名からスタートし、７名の利用開始と２名の利用終了が

あり現在は２６名の登録となっている。利用終了の１名は身体状況の悪化、１名は自己都合による利用終了であった。

年度当初からは５名の利用者増となっているが活動スペースや送迎の問題もあり、登録者上限は３０名まででではと考えている。

短期入所についても目標稼動率を達成することは出来なかった。定期のレスパイト利用だけでは利用率は限定的であり、他機関からの依頼による緊急利用等その他の要因に依存するところが大きい。

・稼働率：生活介護７７．７％（目標８６％）、施設入所支援９９．５％（目標１０２％）、短期入所２６．５％（４０％）

建て替えに向けた検討は、コロナ禍等による事業団全体の収支状況の悪化と、建築資材等の急騰に伴い「入所定員を減らした友愛寮との合築」と言うところまでのコンセンサスとなっている。タイムスケジュールが明確でないところは辛いところではあるが、築５１年を過ぎた多床部屋対応は限界を迎えており、年度末に向けては改築に向かった一定の定員減を図りたい。

（２）ひとり一人の自己実現を目指したサービスの提供

本人ニーズの引き出しを一番に家族の意向も聞き取りながら、定期的にカンファレンスを開催をした。

昨年８月、通所利用する地域生活者のより豊かな生活と入所利用者の地域移行の推進を目標に「地域生活応援プロジェクト」を立ち上げた。その成果として６月には５年ぶりにグループホーム移行者を出すことができた。また、事業団実践報告会及び鳥取県福祉研究学会に発表した。

個別リハビリに加え、定期的に集団リハビリを開催し、リハビリ機会の増加と集団による相互作用と利用者の親睦を図ることができた。

（３）地域共生の土壌作りに努める

コロナ禍による実習やボランティアの受け入れを制限を解除し、受入数は増加した。また、「地域生活応援プロジェクト」に取り組む中で、相談支援事業所やヘルパー事業所とも情報共有や連携を強化することができた。

（４）働きやすい職場作り

事務職員や上司の声かけにより、サービス残業禁止の徹底を行った。

月初めに職員夕礼で「厚和寮倫理綱領」を唱和し、意識の高揚を図った。

Ｗｅｂ研修の増加に伴い専用パソコンの購入等、その環境整備に努めた。

寮内の復命研修の機会を増やし、情報の共有に努めた。

４　実習、ボランティアの受入状況

（１）実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士相談援助実習	9、11、3月	2人	12人
鳥取湖陵高校(現場実習)	5-12月	8人	86人
鳥取社会福祉専門学校	11月	4人	20人
介護等体験	8-9月	2人	10人
計		16人	128人

（２）ボランティアの受入実績

鳥取大学付属特別支援学校高等部、ボランティア体験事業、寺族会婦人会、鳥取湖陵高校、園芸セラピー　［延べ１１０人］

５　附帯事業

（１）短期入所事業　　定員　６名及び空床型

（２）利用実績　（人）

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	10	583	19	847